

令和4年5月1日に思う

“非人道的行為”が繰り返し行われる、それが「戦争」だと思います。

私には戦争の体験はありませんが、まさに戦争とは無法地帯であり、無秩序で非合法な世界であると認識しています。「品のある戦争は存在しない」と思います。

ゆえに、政治家が最も心にすべき任務は「戦争を回避すること」であります。

まさかの事態が発生したのが2月24日、ロシア軍がウクライナに侵攻した事が始まりです。あらゆる報道活動に規制をかけ、「NATOの拡大阻止。欧米の脅威に対抗する正当防衛であり、ロシアそして国民を守るには他に方法がなかった」との言い分に、理解を示す人はいないでしょう。

これに対し、欧米社会や日本がさまざまな経済制裁をロシアに課し、ウクライナへ武器の供与を行っていますが、いまだ終息に向かう兆しが見えません。そして私たちは、連日無残な行為を目にしています。

「国連は正しく機能しているのか、国際社会がどんな役割を果たすのか」いささか疑問とともに腹立たしく思う人も少なくないでしょう。

こうした最中、やはり冒頭に言った悲惨な事態が起きました。必然的に。やがて、その先に待っているのは「核」です。それが戦争なんです。「だから核の議論を」ではなく、日本は「過ちは繰返しませぬから」と強い約束したことを強く認識すべきです。無関心や傍観が悲劇をもたらすことを学び、「銃を手にするより、他に方法がなかった」と言わない知恵を今一度搾りたいものです。